



駒本の力

駒本小学校 (家)
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 12
平成27年10月30日

「どの子ども伸ばす、駒本の教育」 1

本校は、「愛と熱と力の駒本」を学校の経営理念とし、教育活動としては、「どの子ども伸ばす、駒本の教育」の実現を目指しています。「どの子ども」というのは、本校に在籍している全ての子どもたちです。本校は、ご存じのように特別支援教育学級(むくの木学級)と通級指導学級(いずみ学級)、通常の学級の3種の学級で構成されている学校です。特別支援教育については昭和39年に学級が設置されて以来の伝統があります。さらに、現在ではインクルーシブ教育が推進されています。それらの点から、本校は特別支援教育の拠点校という特色をもっています。ただし、本校が目指している姿は、障害のある子どもを含む全ての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行う教育です。その求める姿こそが、インクルーシブ教育の理念であると考えます。ですから、在籍している「どの子ども」伸ばす教育に取り組んでいます。

「伸ばす」というのは、学力(基礎学力、思考力、判断力、表現力、問題解決能力)であり、体力です。もちろん、豊かな心の育成も重要です。そして、「駒本の教育」とは、インクルーシブ教育や特別支援教育の考え方を基盤とした、授業のユニバーサルデザイン化や個別的な配慮によって、どの子ども分かり、学びがいのある教育活動を確立することです。

今後、この「駒本の力」で本校が目指している、「どの子ども伸ばす、駒本の教育」について説明をしてまいります。



どの子ども伸ばす、駒本の教育

一人一人を大切にしたい、どの子ども伸ばす駒本の教育活動の実現

全教科全授業のユニバーサルデザイン化の確立

授業のユニバーサルデザイン化

- 構造化** 共通の学習過程による1時間の授業の構造化
- 視覚化** 視覚情報と音声情報の併用による分かりやすい指示・説明
- 焦点化** 明確で具体的で端的な指示や発問
- 共有化** 児童同士の学び合いや板書等による学習の共有化
- 意欲化** 児童の意欲を高め、自己肯定感を高める支援

特別支援教育の視点

- ・配慮が必要な子への支援は、どの子にとっても必要な支援
- ・自然な形での個別の課題に応じた配慮

駒本スタンダード

子どもたちの学習・生活の標準的なきまり

駒本スタンダード（学習編）について 1

表面の図の一番下にあるのが、「駒本スタンダード」です。「どの子ども伸ばす、駒本の教育」のベースとなる「駒本スタンダード」について解説します。学習編と生活編の2つに分け、駒本小学校のベースをしっかりと身に付けるための決まりとしました。つまり、全児童がこの駒本スタンダードにそって行動するということであり、また、積極的に守っていこうとする子どもたちを育成することです。教科や指導者が変わっても共通のルールとすることがとても大切です。これは、ユニバーサルデザインにもつながります。全員が守るべきルールを絞り込んで、共有化し校内中でぶれないことで、子どもたちに安心感を与え、見通しをもたせることができます。

駒本スタンダード（学習編）

1. 授業が終わったら、次の学習の準備をする。

◇教科書、ノート、下敷き、筆箱を机の上に用意する。

2. 授業の始めと終わりには、あいさつをする。

◇授業の始め

「起立。気を付け。これから○時間目の○○を始めます。よろしくお願いします。」

「よろしくお願いします。（礼）」

◇授業の終わり

「起立。気を付け。これで○時間目の○○を終わります。ありがとうございました。」

「ありがとうございました。（礼）」

3. 発表の約束を守って授業に参加する。（発表の仕方の例）

◇名前を呼ばれたら、「はい」と返事をして起立する。（椅子を入れない）

◇「～です。」

◇「わたしは、～だと思えます。理由は、～だからです。」

◇「わたしは、○○さんの考えと同じです。」

◇「わたしは、○○さんの意見に賛成（反対）です。」

◇発表が終わったら着席をする。

4. 正しい聞き方、話し方をする。

◇聞く人は、話し手を見ながら話を聞く。

◇話す人は、場に応じた声の大ききさで話す。（声のものさし）

5. 学習用具

◇鉛筆を使用し、シャープペンシルは使わない。

◇下敷きを使用する。

6. 教室移動

◇担任が引率して2列に並び、廊下の右側を静かに歩く。

◇専科の教室に行くときは、防災ヘルメットを持っていく。